

「EBPMの試行的検証」

(I) モデル事業 (ICTの活用)

平成29年11月15日

行政改革推進本部事務局

説明資料

モデル事業とは

モデル事業は、一般的に、仮説を立てて、期間や対象を限定して事業を実施し、その成果の活用、社会への横展開を行うものと考えられる。

E B P Mの試行的検証の視点・対象事業

【E B P Mの試行的検証の視点】

モデル事業が一種の社会実験的性格を有することに鑑み、

- ・事前¹に立てた仮説²に対して、事後³の成果をデータ等に基づき検証できるのかなど、

E B P Mの観点からモデル事業特有の留意点等を明確にすることに加え、

- ・モデル事業の実施過程で本格的展開のため必要なデータが得られるようになっているかなど、

事業の基本設計（ロジックモデル）の検証等を実施する。

【対象事業】

- 次世代施設園芸拡大支援事業（農林水産省）
- IoTを活用した社会インフラ等の高度化推進事業（うち、製造分野：スマート工場実証事業）（経済産業省）
- 情報通信技術を活用した教育振興事業（うち、情報教育の推進等に関する調査研究）（文部科学省）

【論点】 モデル事業（ICTの活用）

- ① 事業実施によりどのような情報・データの収集を目的とするのか、また、収集した情報・データの有意義な分析が可能かどうかをしっかりと整理・検討したうえで事業を設計しているか。
- ② 事業の実施成果の普及・展開方法を念頭に置いて事業を設計しているか。
- ③ 客観的データの取得が難しい分野においても、取得可能なデータの有無、データが本当に取得できないのかなどをしっかりと検証した上で、客観的データの取得が困難な部分があれば、その部分についての対応方法を検討しているか。